

第43号
平成24年

6月
HPに 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試してください。

山田整骨院
熊本市中央区出水4-25-1
096-364-7611
<http://yamadasu.com/>
E-mail:yamadasu@opal.ocn.ne.jp

嗚呼!! 危うし!! 危うし!! 西勝造

昭和27年12月号 月刊西医学

グローミュウ（動静脈吻合管）の応用を
知らない現代医学

毛細血管には、スルース（閘門）という孔が開いておりまして、動脈から送られてきた栄養は、この穴から一旦漿液の海の中に放出せられ、それから漿液の海に浮いている細胞に吸収せられる。そして細胞から出された老廃物は、これと入れ替わりに毛細血管のスルースを抜けて、静脈へと送られております。ところが、細胞が栄養を欲しない場合には、毛細血管を閉めてしまうのです。そうすると、今まで行っていた血液の行き場がなくなってしまう。この時反射的に口を開けて、血液を直接静脈の方へ流してくれる管が、毛細血管の少し手前にある。これがすなわち、グローミュウであります。このグローミュウには、膜が被っておりますから、細胞とは何等の交渉はありません。…略…

そのグローミュウの応用といたしましては、あなた方が手を怪我なさったときは、縫うことも消毒することもいりません。ただ血の飛ばないように繃帯をして、手を高く上に上げて微振動するだけでよろしいのです。それで怪我は、完全に治るのがあります。切り落とした指でも、完全にくっつきます。現代医学ではこういう場合、血管は血管、神経は神経というように、つなぎ合わせなければならないのですが、西医学では、そんなことをする必要は全然ありません。切り落としたならば、すぐに拾って、ゴミのついたままとは申しません。よく水で洗ってゴミを落とし、それから指の裏表を、間違えないようにくっつけ、副木を当てて包帯をし、上に上げて微振動をすれば完全に元通りにくっつくのであります。…略…

1947年8月11日発行の「タイム」の医学篇をご覧くださいますと、「興味深き発見」と題しまして、ツルーエタ博士ほか四人の共同になる「腎臓血液循環の研究」という論文の紹介がしてございます。…略…この時足を怪我したものは、期せずして腎臓病になった。不思議に思ったツルーエタは、他の友人や助手たちと研究

した結果、腎臓にはマルピギー氏の小体の手前に、直接動脈と静脈をつないでいる管があって、足を怪我すると、血液はマルピギー氏の小体に入らないで、その管を抜けて直接静脈に入るため、コーテックス (C o r t e x) (腎臓皮質) が貧血を起こすのだということが判ったのであります。ツルーエタはこの管のことをイメージンシー・ディトゥアー (E m e r g e n c y d e t o u r) 「非常のときの回り道」(注：動静脈吻合管) と言っております。…略…

医療上、足を忘れた医術は、土台を無視した建築物
一砂上の楼閣一危うし、爰し

まことにその通りでありまして、私は、かつて昭和十年の一月に「足は万病の基」という書物を出しております。また現代医学においても、最近では、足に故障を起こすと、先ほどのツルーエタの論文にもありましたごとく、腎臓が悪くなるのはもとより、心臓病、血管病をはじめ、さらには精神病にまでなると言われて参りました。…略…シムキン博士は、このツルーエタの論文に刺激されて果してグローミュー (動静脈吻合管) があるかないか、微小のガラス球を使って実験し、確かにグローミューの存在することを、証明したのであります。ガラスの球は、…略…一立方センチメートル、一グラムの中に、六百万個も入るくらい微小なもので、われわれの眼から見れば、まるでうどん粉そっくりであります。これを動脈に注射して、静脈から回収するという実験なのですが、ご承知の通り、毛細血管の直径は8ミクロンないし12ミクロンでありますから、40ミクロンのガラス球は、絶対に毛細血管は抜けられない。ところが実験の結果は、このガラス球を静脈から回収することができた。ここにおいて、毛細血管以外の管、すなわちグローミューのあることがはっきり証明された。…略…

解 説

足を怪我するとなぜ腎臓病になるのか。

何かを圧迫したり、つぶしたりすると炎症を起こしたり、とんでもない所へ故障を起こすクラッシュ・シンドローム (C r u s h S y n d r o m e…圧潰症候群) というものがあります。足を傷めるとその圧潰症候群が起こり、通常の腎臓の血液循環でなく、つまり血液は腎臓の糸球体毛細管を通過しないで、グローミューに抜けるため血液は濾過、浄化されず汚れたままとなりつまり腎臓病になるということです。原因不明とされる妊娠腎、妊娠浮腫を西医学では、妊娠したことによる腹部の前方転位による足への過重負担、足の負傷によると捉えています。足の故障を治すのは山田整骨院で行っている足の毛管運動、微振動、上下運動です。